

令和2年度八王子市民活動協議会理事立候補者所信まとめ

- 1 中川 和郎(一般社団法人八王子自治研究センター)
地域の課題を発掘して、NPO活動のニーズとは何かを考えてまいります。そのためには、一般社団法人八王子自治研究センターとの連携が不可欠であると考えます。過去11回開催の共助のまちづくりシンポジウムを深化させて、昨年度に引き続き「持続可能な地域創生」をテーマに企画して実施してまいります。その他、第8回NPO八王子会議を開催してまいります。NPO法人・任意団体等のニーズとは何かを考え、次のステージに向けてのアクションにつなげていきます。最後に、市民活動支援センターの指定管理者を勝ち取ることです。そのためには、市民活動支援センターとの連携・コミュニケーションを密にしてまいります。
- 2 廣川 英資(個人)
八王子市民活動協議会は「市民活動の活性化及び地域の発展に寄与することを目的」としています。急速な高齢化で八王子市民活動協議会への期待は高まっています。老人保健事業の見直しに関する検討会でも地域のニーズに応え、必要な情報を提供しNPOを支援育成することが課題提起されました。総務省ICT成長戦略会議でも「超高齢化社会対策」として3つの課題が示されました。それがそのままNPO団体の活動の展望になっています。八王子市に多くの助成団体が来られました。トヨタ財団の活動助成は「育てる助成」です。折角頂いた期待です。「ITで在宅で安心して暮らせる街」構想を纏めました。ミッション実現に少しでも役に立てばと願っています。
- 3 小林 万里子(個人)
4年前に福山市(広島県)から八王子市に転居。志民塾の10期生で、市民活動支援センターでは広報誌の記者も務めています。生涯学習コーディネーター会(略称・コ会)にも所属し、今年度の理事に内定しております。福山では市民活動を支える公設民営(当時)の中間支援団体で11年間役員に就いておりました。私自身も市民団体を複数立ち上げる中、様々な経験を積み、成功より失敗した経験の方が、その後得るもの・生かせるものが多かったと思います。中間支援では人材育成や合意形成の重要性を実感。「ファンリテーション」を勉強し、昨年度はコ会の養成講座で初めて講師も務めました。協議会では私のささやかな知見と経験がお役に立てれば幸いです。
- 4 高倉 裕香(マルベリー東京パイロットクラブ)
「NPO法人すまいるカフェ」と、国際民間ボランティア団体「マルベリー東京パイロットクラブ」でお世話になっております、高倉裕香と申します。パイロットクラブとして「オトバ」2回目位から出展させて頂き、ゆめおりファンドのお世話になった事もありました。2012年にはパワーアップ講座を受講し、学んだことをそのまま実践して「NPO法人すまいるカフェ」を設立。その後は助成金情報や申請方法等基本から教えて頂き、現在も様々お世話になっております。いつまでもお世話になっているばかりでは申し訳ないと思い、協議会の活動を通して、何かをやろうとしている様々な団体や個人の皆様のお手伝いをさせて頂ければと思っております。
- 5 濱野 悦博(個人)
およそ15年余り、さまざまな地域の市民活動支援の場に関わってきました。団体の担当者の方といっしょになってNPOの専門知識、会計、広報等のアドバイスの仕事を重ねながら、市民活動に関わるトレンドの変化を肌で感じています。こうした知識や経験を八王子市民活動協議会の発展のために活かしたいと考えております。
- 6 奥村 暁(個人)
高齢化の進行等により八王子の社会的課題は拡大しつつあり、これに対応するには、従来の枠を越えた市民活動の活性化が不可欠である。中間支援組織である協議会もそれに向けた体制強化が求められている。
実現に当たっては、内部だけでは限度があり、外部の力の活用を図る必要があるのではないか。既存NPO団体等との連携強化や大学等との連帯などによる組織化に向けて注力したい。志民塾OBの活用も重要であろう。CB等の自立化支援を図るとともに、協議会自身がインキュベーターとしての役割を果たすことも考えられて良かろう。また、今まで私自身が携わってきた行政と民間という異なる立場での経験で役立つものがあれば全面的に協力したい。

7 齋藤 健(個人)

「八王子市民活動支援センターの指定管理の継続受託」が最重要課題であります。同センター並びに八王子市民活動協議会が、市民や市民活動団体に一層役立つため、改革が要請されています。これまで理事として、機関での改革の検討に参加してきました。多くの市民や会員の方々に参加していただき、従来の事務局や役員が中心の組織から市民が中心となる組織に変革するとともに、真に市民活動や地域活動の支援を行えるよう、八王子国際協会やいちよう祭りでの事務局の経験も活かしながら、進めていきたいと考えております。

8 牧 弘法(個人)

八王子市に転居して5年。八王子志民塾8期生として地元の歴史やNPOの在り方を学び、国際協会主催の語学シリーズで仏伊二カ国語を習得し、地元の谷野町会役員として活動してきました。都会と田舎が共存し豊かな自然に恵まれ、20を越す大学があり教育文化の薫り高い平和の町・八王子は魅力にあふれています。古来、桑の都として日本の織物産業の一翼を担ってきた伝統産業も残っており、市政200周年へ“協働のまち”を目指す担い手を作り、世界に類例のない超高齢社会にあって、その問題解決の場を作りゆく中間団体である市民活動協議会の役割は一段とその重みを増しています。大好きな我が町八王子の発展に寄与し、尽力してまいります。

9 内野 洋子(エコショップ元気広場)

2年前理事になり、岩田さんの急死で急きょオトパ事務局長の任につきました。オトパ事務局長2年目の今年3月、新型コロナウイルス感染症の影響で、#23オトパは中止となり、「次は6月2日の実行委員会で会いましょう」とオトパ実行委員の方たちと約束してお別れしました。オトパはこの1・2年変革の時でもあります。実行委員の方たちと力を合わせて、八王子のシニア層がいきいき暮らせるお手伝いが出来ればと思います立候補します。

10 千種 康民(NPO法人情報ボランティアの会・八王子)

理事1期目はPDCAサイクル改善と見える化を豊富とし、今度は2期目の立候補になります。1年目は、①協議会の会議の見える化と迅速化、②協議会と支援センターの理解分析を行いました。2年目は、③女性若者シニアとファンド部の事業連携を模索し、秋には④「SDGsでまちづくり～八王子編～」も成功裡に企画運営しました。

以上を踏まえ、今後の協議会および次期支援センターとしての活動方針として、世界的な潮流であるSDGsと岡崎理事長が専門である幸福学、山中事務局長が専門である経営学および千種が専門であるICT等を有効活用した持続可能な市民協働の枠組みを構築するよう努力します。

11 石見 光夫(個人)

高齢化社会を迎え、公助、共助、自助のなかで共助の必要性がますます重要になります。地域に密着した自治会は重要な役割を担いますが、同時に自治会組織を超えた市民の活動、連携がさらに必要です。その役割をを担う八王子市民活動協議会の理事としてさらに2年間活動したいと思います。

12 早乙女 友紀(地域婚活支援の会)

市民活動をされている方々のお力になればと思います。

13 岡崎 理香(個人)

これまで、八王子市民活動協議会の理事として多くの活動をやってまいりました。広報部を担当していた時には協議会だよりの紙面作新、内容の見直しなどを行い、第5期から担当している「はちおうじ志民塾」はカリキュラムの見直し、企画運営に携わってきました。2年前から理事長という重責を担っていますが、事業内容の改革、世代交代の推進等に積極的に取り組んでまいりました。今年是指定管理者としての契約の更新への応募という大きな役割があります。引き続き八王子市民活動協議会に貢献することで、地域活動の発展のお手伝いができれば、と思います。